



教育長 田中 康寛

暦の上では春を迎える 2 月。梅の花を見ていると、冬の寒さを耐え忍んだ先には、穏やかで温かなときが待っているのだと私たちに教えてくれているように感じます。

新型コロナウイルスのオミクロン株により、感染者が急増し、県内全域にまん延防止等重点措置が適用されています。オミクロン株は、これまでの変異株と比べて重症化リスクは低いとみられていますが、感染力が高く、市内では学校閉鎖とした学校もあります。これまで以上に危機感をもち、家庭とも連携しながら対応してまいります。ウイルスが変異と流行を繰り返してきたこの 2 年の間に、3 密の回避など、基本的な感染症対策は日常になりつつあります。各園・学校においても対策を引き続き講じているところですが、今一度、気を引き締めて感染拡大防止に十分に努めるとともに、子どもたちが心の健康も保てるよう、一人一人の様子に十分に目を配ってまいります。

教育委員会では、小中一貫教育を推進しています。小中一貫教育のメリットの一つとして、9 年間という期間だからこそできる、独自のカリキュラムの実施が挙げられます。平成 27 年 4 月に小中一貫校（平成 28 年 4 月から義務教育学校）として開校した塩浜学園では、「塩浜ふるさと防災科」を創設し、学びの連続性・系統性を重視した教育活動を行っています。

また、令和 3 年 4 月から、東国分中学校、曾谷小学校、稲越小学校の 3 校による小中一貫型小学校・中学校「(通称) 東国分 ^{そうふう} 爽風 学園」がスタートしており、オンライン会議システムを使って 3 校合同で集会を行ったり、中学校の数学科の教員が小学校 6 年生の算数を教えたりしています。今年度の取組の成果と課題を整理するとともに、令和 4 年度からは、地域に根差した新たな領域「ふるさと探究科」の中で、ふるさとの課題を見だし、解決を目指して追究し、発信する力を培っていきます。このような力は、変化のスピードが速く、予測が難しい社会を生き抜くために必要です。子どもたちには、生涯を通じて探究心を持ち続け、学びを地域や社会に役立ててほしいと願っています。そのためにも、各園・学校では、幼児教育から義務教育、高等教育、さらには社会へのつながりを意識した、子どもへの指導・助言を行ってまいります。

1 月より、小学校 1 年生から 3 年生への学習用端末（タブレット）の配付を行っています。これにより、すべての児童生徒への 1 人 1 台端末の環境が整うこととなります。教育委員会では、児童生徒に共通で身に付けてほしい ICT に関する情報活用能力を、各学校で発達段階に応じて体系的に育めるよう、準備を進めています。学校での ICT を使った取組やその際の子どもたちの様子を積極的に発信してまいりますので、家庭と学校との連携にご理解、ご協力くださいますようお願いいたします。